

## ユニセフ T・NET 通信

2011 AUTUMN

No.49

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

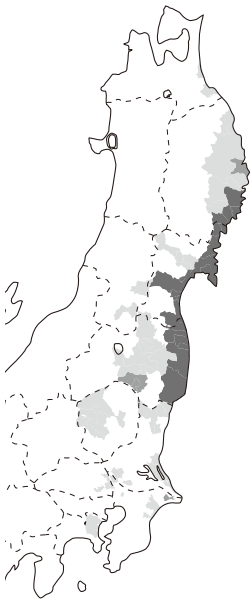
〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

# 東日本大震災

## ユニセフ、日本の子どもたちの支援へ



2011年3月11日、国内観測史上最大の大地震と津波が、東日本を襲いました。これまでに体験したことのない大規模震災に衝撃を受け、未曾有の悲劇に日本中が深い悲しみに包まれました。地震発生3日後の14日、ユニセフ事務局長アンソニー・レーク氏が日本への支援の申し出を表明。時をほぼ同じくして、日本ユニセフ協会は東日本大震災緊急募金の受付を開始。そして、日本ユニセフ協会は、緊急支援本部を設置し、ユニセフ本部、ユニセフ東京事務所と連携し、子どもたちへの教育支援、母子の保健栄養支援、子どもの保護の分野を中心に支援活動を実施することを決めました。

これまで日本の人々にも大きく支えられてきたユニセフの活動。大震災に見舞われた日本のために、ユニセフと日本ユニセフ協会がとった行動は、約50年ぶりとなる日本への支援でした。



©日本ユニセフ協会/2011/K.Shindo  
避難した高台から壊滅した故郷を眺める姉妹  
(2011年3月20日、宮城県南三陸町)

東日本大震災 被害状況データ  
(警察庁HPより、2011年8月31日現在)

死者: 15,756人 全壊: 115,425戸  
行方不明者: 4,460人 半壊: 157,170戸

### 一刻をあらそう緊急事態

想像を絶する深刻な被害が広範囲にわたった今回の震災では、緊急支援物資を届けることは急務でしたが、被災直後、インフラや行政が混乱に陥った中、被害状況を把握することさえも困難をきわめました。しかし、日本ユニセフ協会の長年のパートナーである生活協同組合をはじめとする団体・企業の方々の多大なご協力のもと、地元の物流網を生かして飲料水や肌着などの支援物資を迅速に調達、配布できたことは、支援活動の大きな一歩となりました。そして、開発途上国で活動している日本人ユニセフ職員を被災地へ応援派遣し、本格的に東日本大震災への支援が始まりました。

デンマークのコペンハーゲンにあるユニセフ物資供給センターからは、子どもたちの心のケアのために災害時に途上国でも使われている「箱の中の幼稚園」が届けられました。避難所の中で不安や恐怖とたたかっている子どもたちが、安心して遊び、過ごせる場所「子どもにやさしい空間」を作り、ぬいぐるみやお

絵かきセットなど「箱の中の幼稚園」に入っている玩具を使い、震災前と同じように「遊ぶ」ことを通して、心を開放できるように子どもたちを励ました。

震災から2週間後、日本ユニセフ協会は、津波で家や持ち物を流されてしまった子どもたちのために、全国から絵本を集めて被災地へ贈る「ちっちゃな図書館」プロジェクトを立ち上げました。予想をはるかに超える絵本の数々が日本ユニセフ協会へ届けられ、日本全国のみなさんの被災地の人々を思う優しさや何かしたいという強い思いを感じずにはいられない嬉しい出来事でした。これまで約26万冊以上の絵本を避難所や幼稚園、保育園などに届けることができました。



©日本ユニセフ協会/2011/K.Shindo  
宮城県女川町にユニセフの支援物資を運ぶ  
生協のトラック

## 学校再開

日本ユニセフ協会は、4月の学校再開のために教育委員会や学校と日々調整を重ね、全力をあげて取り組んできました。先生たちの仕事環境を整えるため、パソコンやプリンターなどの機器類、机や椅子などの備品に加え、子どもたちには学校かばんやランドセル、鉛筆、ノート、筆箱など学校用品を届けました。箱詰め状態で届く文房具やバッグを1人分ずつ学年ごとのニーズに合わせてセットする地道な作業も、ボランティアの方々によって猛スピードで進められ、無事、子どもたちの元へ届けられました。ユニセフが支援した宮城県女川町の女川第一中学校の生徒たちは、地震から約4ヶ月後に実施された修学旅行でユニセフハウスを訪問し、「このように充実した3ヵ月間の学校生活を送れるのも、ユニセフのみなさんのご支援があったからです。本当にありがとうございます。私たちはいつまでもこのことを忘れず、いつかおとなになったとき、困っている人たちに自分から何かをしてあげられるおとなになれたらと思



©日本ユニセフ協会  
始業式に文具とバッグを受け取った宮城県女川町立女川第二小学校の子どもたち



©日本ユニセフ協会  
ユニセフの文房具セットを受け取り笑顔の岩手県久慈市立長内小学校の子どもたち

います。」と語ってくれました。女川町の給食施設の修繕も完了し、8月末には町内すべての小中学校で給食を再開することができました。また、地元の自治体からの要請を受け、学校に比べて支援が遅れている幼稚園、保育園の修繕や仮設園舎の建設などへの支援も始まっています。先生や子どもたちの声を反映させ、子どもに優しい施設作りを目指します。



©日本ユニセフ協会  
ユニセフの支援でできた仮設園舎で保育を始めた大楳保育園

## 乳幼児健診、予防接種の再開

元々、医師の数が少なかった地域で医療に従事されていた方々が大勢亡くなり、初めは医療器具も通信手段も何も無い過酷な状況でしたが、4月下旬～6月にかけて、乳幼児健診、予防接種を再開することができました。日本ユニセフ協会は、NGOと協力しながら、健診に必要な機器類、ワクチンや保冷庫、巡回診療のための車両の提供など、母子保健事業のサポートを引き続き行っています。



©日本ユニセフ協会  
4月20日、陸前高田市で行われた乳幼児健診

## 宮城県で支援活動にたずさわったユニセフ職員 国井修さんからのメッセージ

震災直後、避難所を廻っていると、子どもたちからは完全に笑顔が失われていました。心の傷を癒すためにも、一刻も早く「元の生活に戻す」ための学校再開は重要でしたが、学校の教室や体育館は避難所で埋め尽くされ、教科書もランドセルも流されており、学校再開どころではないという声もありました。それでも、自らも被災者でありながら、学校に寝泊りしながら必死に準備を進める先生方もいました。特に、家屋の約7割が全壊する甚大な被害のあった女川町では、教育長、先生方がとても熱心で、例年通り4月8日に学校を再開しようと全身全霊で取り組んでいました。日本ユニセフ協会も文具品など再開に必要な物品を揃え、全面的な協力をしました。残念なことに、4月7日に起きた震度6強の地震の影響で延期しましたが、4月11日の学校再開によって子どもたちには少しずつ笑顔が戻りはじめました。その笑顔を見て、また、先生方や父兄の顔にも笑顔が戻るのを見て、支援を続けてきてよかったと心から思いました。まだまだ本格的な復興には時間はかかりますが、その中で強く逞しくなっていくように子どもたちをさらに支援していきたいと思ひます。



国井 修さん

所属：ユニセフ・ソマリア事務所  
保健・栄養・水衛生事業部長

震災直後、ソマリアから帰国し、日本ユニセフ協会緊急支援本部宮城県フィールドマネージャーとして約2ヵ月間、宮城県内の支援活動を統括した。

## 子どもたちの心へ寄り添う復興支援を

東日本大震災への支援活動は、ユニセフ本部、東京事務所、日本ユニセフ協会のユニセフファミリーが一丸となった活動です。また、地方自治体、NGO、物資の寄贈、調達に協力して下さったパートナー企業、団体、ボランティアの方々、ユニセフの活動を支えてくださる日本や海外の皆様、そして、何よりも被災地の方々自身の努力との連携によって、実現したものです。Build Back Better（＝震災前よりも良い状態へ復興させる）を目標に掲げ、日本ユニセフ協会は、子どもたちへ寄り添う支援を模索しながら、今後も活動を続けていきます。

### 東日本大震災支援活動計画

●実施主体	公益財団法人 日本ユニセフ協会
●主要協力機関・団体	ユニセフ（国連児童基金）、各県ユニセフ協会、被災地各自治体（災害対策本部、教育委員会等）、被災地各県生活協同組合、同連合会等ユニセフ協力団体、協力企業、国内専門家団体、被災地のコミュニティ、市民団体、ボランティア
●支援事業予算総額：25億円	
緊急救援物資の提供（段階的に縮小中）	75,000,000円
教育支援 バック・トゥ・スクール（学校へ戻ろう）キャンペーン	1,100,000,000円
子どもたちの栄養改善支援	60,000,000円
お母さんと赤ちゃんの保健・栄養支援	200,000,000円
子どもの心理社会的ケアと保護	150,000,000円